

# 世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Take a sauna - in a combine harvester  
フィンランド

## コンバイン・ハーベスタの中はサウナ風呂



フィンランド人の中には、従来のサウナでは物足りないと感じている人たちがいる。彼らは、もっと刺激的なサウナ体験を求め、なんとコンバイン・ハーベスタにサウナ設備を取り付けしてしまった。

2006年、西フィンランドのテウバ市の農業経営者グループは、旧式のファール社製M750型を移動サウナ室に改造することを思い

ついた。彼らは穀物タンク、ストローウーカー、ふるい、わらチョッパーなどを取り外し、エンジンの位置を下げたトランスミッションを改良した。そのため最高時速は10kmになってしまった。取り外した排出オーカは煙突として再利用し、後部のウオーカー・フードはシャワー室にした。ポンプで機械の後部に吸い上げた水は前もって前部のタンクに入れておく。おまけにヘッダーリールは何かと便利なタオル掛けになっている。

収穫作業の中核だったコンバインの後部に作られた容積9.2mのサウナ室には昼間用のルーフライトと夜間用のスポットライトが完備しており、文字通りの「ホット・スポット（穴場）」だ。勿論、木製ベンチの下には缶ビールがたっぷり入っている。

このハーベスタ型サウナは、昨夏の週末に開催された移動式サウナの祭典「テウバ・サウナ・アヨット」に参加して大変な人気を博した。もっと多くの映像を見たい方は、WEBサイト「<http://www.teuva.fi/jaakkesus/>、画面右側の「Saunajoio」と書かれたボタンをクリックしてほしい。今年の



寒い時には、コンバイン・ハーベスタ型移動式サウナで一汗かいてリフレッシュ！

イベントは8月8日に行なわれる予定なので、勇気と興味のある方は足を運んではどうだろうか。

Monster sprayer goes on sale Down Under  
オーストラリア

## モンスター噴霧機、まもなくオーストラリアで販売開始



「世界最大のけん引型噴霧機」。オーストラリアのゴールドイーカース社が、新しいクアドラマックスシリーズのために考えたキャッチフレーズだ。

同社のヴィック・マラー本部長は、公式発売より前に機械の詳細を明らかにするのを好まないが、容量6000ℓの主スプレー・タンクを2つと1000ℓの化学薬品用シャトル・タンクを2つ装備した全容量1万4000ℓの機械だと語った。

「このような大容量の噴霧機は前代未聞です。外見は単一シャシーで4つの車輪とフロント・ハブ・ステアリングが付いていますが、他のどんなに巨大な機種でも小さく見えてしまうことだけは間違いありません」とマラー氏は言う。

双方向化学薬品注入装置が標準装備され、同社製のプレイリー・アドバンス E F 型で実績があるデザインを取り入れた後部ブームのサポート構造が採用されている。

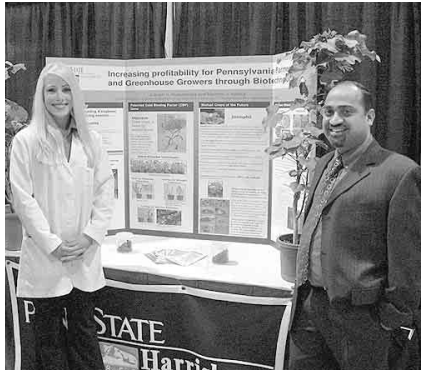


ゴールドイーカース社製のクアドラマックス型噴霧機は、6000ℓの主タンクを2つ搭載した全容量1万2000ℓの噴霧機。前面には化学薬品や微量元素を入れる一対のシャトル・タンクが取り付けられており、積載可能な液体の全容量は1万4,000ℓに達する。



**Finding the right alternative fuels**  
米国

**正しい代替燃料を探して**



サイラム・ラドラバトラ博士と同僚のメラニー・コジック氏は、ナンヨウアブラギリが新しいエネルギー資源として大きな可能性を秘めていると確信している。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。

「バイオテクノロジーを利用することで、数年以内に商業ベースに乗せられそうです」と博士は話す。



米国のトウモロコシ生産者が栽培面積を400万haに拡張したのは2年前のことだ。バイオ燃料需要の高まりに応じるのが

**Dutch magazine tests rust removers** オランダ  
**オランダの雑誌がサビ取り製品をテスト**

**Memories of the old and much-loved Motocart** 南アフリカ  
**昔ながらの自走式カートが復活**

同誌が、サビの除去性能と潤滑効果を集団的に調査した結果、簡単に入手することができる（日本製WD-40が、全体的な効果と取り扱いの容易さでトップになった。幅広い用途に対応し、狙ったところに塗布できる便利なストローが評価されたのだ。）

そこまでは順当なところだが、オランダ製のイマール（Imal）とクルーン（Kroon）は僅差で首位を逃す結果となった。2種類のコーラに関しては、ある程度の潤滑効果は認められた。

同誌は別の商品テストの準備もしているようだ。



農業機械を専門に取り上げるオランダの月刊誌「ランドボーウ・メカニエ（Landbouwmachinerij）」が、3種類のサビ取り製品の商品テストを実施した。代替品として1対の人気商品も同時にテストされた。それはペブシコーラとコココーラだ。



オランダの雑誌『ランドボーウ・メカニエ』がサビ取り製品を詳細に調査した。

パネルバン型（後部荷台部分に屋根が付いた形のバンに変更する荷台の屋根も用意されている上に、ダンク型のオフショーンもある。さらに、4サイクル1500ccエンジンの三輪車は、最高時速70kmで、燃費はリッター当たり30〜40kmとなっている。



南アフリカの西ケープ州で開催された農業機械の展示会に、東アジアの才能豊かな発明家が組み立てたユニークな低コスト車両が登場した。その名は「セベンザ」。運搬用の三輪オートバイだ。

セベンザという名は南アフリカ国内での商標名だ。（先住民の）ズール族の言葉では「労働」を意味する。その名は、この製品が設計された目的を見事に言い当てている。小規模に野菜を栽培する農業経営者には、すぐに買い手が見つかる都市部の市場まで生産物を輸送する手段が必要なのだ。



三輪オートバイのセベンザは、1940年代に英国のソーニクロフト社が製造したモトカートによく似ている。